

「規制のサンドボックス」制度に関する法案への意見

2018年4月5日

公益社団法人 経済同友会
代表幹事 小林 喜光
新産業革命と規制・法制改革委員会
委員長 間下 直晃

1. 法案の早期成立を期待する

今般、産業の生産性向上を短期間に実現すべく、「規制のサンドボックス」制度の創設を含む「生産性向上特別措置法案」が第196回通常国会に提出された。

「第4次産業革命」において、産業や企業の国際競争力を強化するには、革新的技術の研究開発から事業化までの期間の短縮化が一層重要になっている。「規制のサンドボックス」は、技術力は有していても社会実装が遅いとされるわが国が、技術進化に応じた規制改革のスピードを大きく加速させ得る制度であり、本法案の早期成立を期待したい。

既に世界では、イギリスなど¹が、事業者が規制の適用を受けず、新技術を活かした金融サービスの実証実験ができる環境を整備した「レギュラトリー・サンドボックス」を設けている。こうした先行例と比べても利便性の高い、国際競争力のある制度とすることが重要である。

今回の法案は、他国のようにフィンテック分野に限らず、IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット等の技術を活用した広い分野の実証実験を対象にしており、意欲的である。本制度の活用によって、「第4次産業革命」を牽引するイノベーションの創出を加速させるべきである。

そのためには、最先端の技術の動向や世界における規制の状況等を踏まえた広い視点で、府省庁横断的に規制改革を行うことが必要である。その意味で、内閣府に設置され、新技術等実証に係る新たな規制の特例措置が及ぼす経済全般への効果等の評価を担う革新的事業評価委員会の役割は、大変重要である。

¹ イギリスの他に、香港、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、UAE、オーストラリアで規制のサンドボックスを創設。

さらに本法案では、参加者や期間を限定し、「規制の特例措置」により、関連規制が適用されない環境での実証実験を可能としている。実験データを蓄積し、事業者側からエビデンスに基づく規制改革の効果を示すことにより、これを推進すべきである。

2. 成果創出に向けた今後の取り組み

「規制のサンドボックス」を活用した成果創出のためには、本法案成立後に策定される実行計画に以下の施策等を盛り込み、事業者が利用しやすく、また各府省庁が規制改革を確実に進める仕組みを担保すべきである。

- ・新事業等に関する規制適用の有無や、法令解釈の確認、相談が複数の府省庁にわたる場合でもワンストップで対応が可能な一元的窓口を設置する。
- ・事業化までの期間短縮化が重要であることから、事業者が新技術等実証計画を提出してから、実証実験可否の判断・回答までは1ヶ月程度とする²。
- ・「規制のサンドボックス」を活用する事業者については、技術やビジネスモデルの革新性を重視すべきである。したがって、革新的事業活動評価委員会の委員は、先端技術について高度な専門性を持つ人材や先端技術を活かした事業化について豊富な経験を持つ人材などで構成する。
- ・実証実験の結果、大きな問題がない場合や、改善による問題解決ができる場合には、事業化への移行をシームレスに行えるよう、法改正が行われるまでは、実証実験の延長を認める。

今回の法案は、新しい経済政策パッケージ・生産性革命の「集中投資期間」に合せた3年間に限られているが、イノベーションを継続的に創出するために早期に期間を延長すべきである。

また、「規制のサンドボックス」では、「プロジェクト型」と「地域限定型」のうち、事業の内容や段階に適したスキームの選択が重要になる。制度運用開始後、企業等の利用者の評価を通じて、それぞれのスキームがより高い効果を発揮すべく、改善されていくことも期待したい。

3. 規制改革の加速に向けた体制の整備

規制改革について審議する会議体としては、規制改革推進会議がある。また、規制改革のスキームとしては、グレーゾーン解消制度、規制の特例措置

² テーマはフィンテックに限定されるが、シンガポールではMAS (Monetary Authority of Singapore) が21営業日以内で判断する。

(新事業特例)、国家戦略特区がある。今回の法案が成立すれば、新たに「規制のサンドボックス」が加わることになる。

制度を利用する事業者にとっては、その名称や趣旨が分りやすく、利用にかかる人的、時間的コストが最小限であることが望ましい。したがって、今後、各スキーム等の特徴を活かしながらも、実際に事業者の役に立ち、また、規制改革の議論・検討を一体的、効率的に行う体制をつくり、改革を加速すべきである。

4. 企業は「規制のサンドボックス」を活用し、新事業への積極的な挑戦を

進行する「第4次産業革命」に日本が取り残されず、むしろこれをリードするためには、経営者・企業が革新的な技術やアイデアを活かした事業を「まずやってみる」ことが必要である。「規制のサンドボックス」を活用し、グローバルにも競争力のある、利便性の高い製品やサービス等を創出することにより、経営者・企業がリスクを取って新事業に挑戦する意義を示していかなければならない。

以上